自助・・・自らの命は自ら守る!

家具の配置見直しで、安全空間を作りましょう!

建物の耐震化と共に、家具などの転倒から命を守るため、まずできることがあります。

寝室や子ども部屋、お年寄りまた家族が長く過ごす空間には、できるだけ家具を置かないようにしたり、背の低い家具にしたりするなど、安全空間を作るようにしましょう。また、避難する際に、出入り口や廊下などをふさいでしまうような家具は、避難経路となるところには置かないようにしましょう。

阪神・淡路大震災における死亡者の死因

	死者数
家屋、家具類等の倒壊による圧迫死と 思われるもの	4,831 (88%)
焼死体 (火傷死体) 及びその疑いのあ るもの	550 (10%)
その他	121 (2%)
合計	5,502 (100%)

発生が危惧される阿寺断層帯地震では、震度5強から6強、部分的には 震度7が予測されています。

気象庁の<u>震度階級解説</u>では、<u>震度5</u> 強で、棚にある食器類や書棚の本で、 落ちるものが多くなる。

震度6強で、固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。 震度7で、固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある、と解説されています。

※平成7年度版「警察白書」より(平成7年4月24日現在)警察庁調べ ※消防庁:阪神・淡路大震災について(確定報、平成18年5月19日)によ 死者数は6,434名、全壊住家数は約10万5千戸





内閣府:減災の手引きから

家具の上に重い物を置かない

基本的には、家具の上にテレビなど重いものを置かないようにしましょう。またガラスケースなどは落ちてガラスが割れると、素足では逃げられなくなります。靴なども用意しておきましょう。

次回は、近所・互助についてお知らせいたします。